

日本手話実践力育成プログラムのご案内

手話で話せた、
のその先へ

Supported by  **THE NIPPON FOUNDATION**

教育プログラムの概要

ベーシックコース

アドバンスコース

講義

日本手話講座Ⅰ「言語としての日本手話ⅠA・ⅠB」65時間
日本手話講座Ⅱ「言語としての日本手話ⅡA・ⅡB」65時間

手話通訳講座Ⅰ「日本手話と日本語の違いを学ぶⅠ」40時間
手話通訳講座Ⅱ「日本手話と日本語の違いを学ぶⅡ」40時間
手話通訳講座Ⅲ「日本手話と日本語の違いを学ぶⅢ」40時間

定員

30名

10名

受講料

130,000円 (65,000円 × 2科目)

120,000円 (40,000円 × 3科目)

オンライン受講に関わる機材、通信料、また教科書等の費用は受講者のご負担となります。

教育訓練給付制度

本プログラムのベーシックコースは、厚生労働省が定める教育訓練給付制度「専門実践教育訓練」の指定講座として認定されています。教育訓練給付制度とは、一定の受給要件を満たす方が、厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練を受講・修了した場合に、その費用の一部が教育訓練給付金として支給される制度です。詳細は厚生労働省のホームページをご参照ください。

教育訓練給付金の受給要件や支給申請手続きについては、お住いの地域を管轄するハローワークにお問い合わせください(本学ではお答えできません)。

アドバンスコースについては、本学から厚生労働省へ指定講座として申請中です。

受講資格

以下の条件をすべて満たしている者としてします。

- 高等学校卒業または群馬大学共同教育学部において「高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある」と認められ、18歳に達した者
- アドバンスコースについては、ベーシックコース修了相当の手話スキルを有している者
※「ベーシックコース修了相当の手話スキル」の詳細は、プログラムの到達目標をご覧ください。
- 群馬大学共同教育学部が行う本プログラムの選抜試験に合格した者



履修証明制度とは

履修証明制度は、学校教育法の規定に基づき、大学の特別の課程として、社会人等を対象に大学の教育研究資源を活用し、学習の機会を提供するもので、人材養成の目的に応じて必要な講義又は授業科目を体系的に編成した教育プログラムです。

本プログラムは、「群馬大学における特別の課程に関する規則」第1条2の定める「群馬大学が編成する特別の課程として履修証明を行うプログラム」として認定されています。修了者には法に基づく履修証明書が交付されます。

教育プログラムの特徴

ろう児・者が、手話を母語 / 第一言語として獲得し、手話で教育を受け、手話であらゆる社会的サービスにアクセスできるようにするには、高度な手話コミュニケーション力を持った支援人材が欠かせません。

本プログラムでは、厚生労働省手話奉仕員・手話通訳者養成カリキュラムの基準を満たした授業を、平日夜間にリアルタイム双方向のオンライン形態で開講することで、社会人の方々が、手話及び手話通訳のスキルの習得を目指せるようにします。

2年半だけで

厚生労働省手話奉仕員・手話通訳者養成カリキュラムの基準を満たした講座を、各地方自治体で開催している養成講座では最低でも4～5年かかるところを、2年半で全課程修了できます。

資格取得へ

各市町村の手話奉仕員または各都道府県の登録手話通訳者、手話通訳士といった資格取得への道が拓けます。

仕事も勉強も

全プログラムを平日夜間にオンラインで開講しますので、お仕事を辞めずに学ぶことができます。

着実なスキルアップへ

第二言語習得理論・外国語教授法・通訳理論に基づいて開発された学習方法・指導により、手話・手話通訳スキルをしっかりと身につけて、着実なキャリアアップやスキルアップにつなげることができます。

リアルタイム双方向オンライン授業

オンデマンド授業（課題提出あり）

1年間

ベーシックコース

手話奉仕員資格取得（※1）

（前期）

日本手話講座Ⅰ
「言語としての日本手話ⅠA・ⅠB」
(60時間)

（後期）

日本手話講座Ⅱ
「言語としての日本手話ⅡA・ⅡB」
(60時間)

聴覚障害の基礎知識 10時間
手話の基礎知識
聴覚障害者の生活
障害者福祉の基礎
聴覚障害者運動と聴覚障害者福祉制度
ボランティア活動

1年6ヶ月間

アドバンスコース

手話通訳者全国統一試験
受験資格者（※2）

（前期）

手話通訳講座Ⅰ
「日本手話と日本語の違いを学ぶⅠ」
(30時間)

（後期）

手話通訳講座Ⅱ
「日本手話と日本語の違いを学ぶⅡ」
(30時間)

（前期）

手話通訳講座Ⅲ
「日本手話と日本語の違いを学ぶⅢ」
(30時間)

ことばの仕組み 30時間
日本語演習
手話通訳の理念と仕事(1)(2)
手話通訳者の健康管理
聴覚障害児の教育
手話通訳者に必要な援助技術
障害者福祉概論

※1 手話奉仕員養成課程を修了したあと、市町村で認定を受けて手話奉仕員資格を取得する手続きが必要です。手話奉仕員資格を運用していない場合であっても、一般的には都道府県で実施する手話通訳者養成講座の受講資格が得られます。お住まいの地域の自治体にお問い合わせください。

※2 アドバンスコースを修了することで、各都道府県登録手話通訳者認定試験（手話通訳者全国統一試験を含む場合もあり）の受験要件を満たします。お住まいの地域の自治体にお問い合わせください。

プログラムの到達目標

群馬大学の日本手話実践力育成プログラムは、ヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages) の行動中心の考え方に基づいた授業を展開する中で、「理解」「産出」「やりとり」「仲介」のコミュニケーション言語活動において、コミュニケーション言語能力 (言語能力・社会言語能力・語用論的能力) とコミュニケーション言語方略を身につけ、手話通訳のスムーズなスキル習得につなげていくことを目標としています。

ベーシックコース

- CEFR A2 以上 -B1 レベルの日本手話運用力
- 1,500 語以上の手話語彙
- 日本手話の基本文法の理解・産出
- 聴覚障害者の生活や社会に関わる基礎知識

アドバンスコース

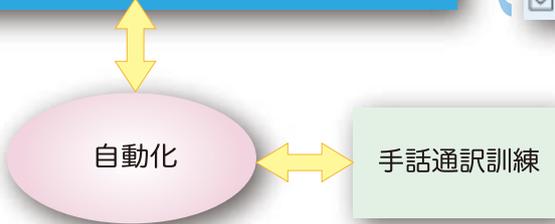
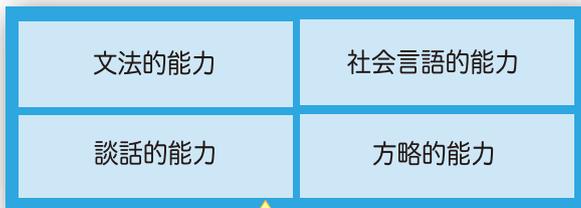
- CEFR B2 レベル以上の日本手話運用力
- 3,500 語以上の手話語彙
- 日本手話と日本語の意味的等価性を保持した正確な通訳力
- 通訳者としての職業倫理に則った効果的な判断と行動
- 手話通訳者の理念と仕事、健康管理に関わる知識

授業の特色

詳細はこちらをご覧ください→



コミュニケーション能力の向上



ベーシックコース

- ☑ 日本手話の文法
- ☑ 語彙数の着実な増加
- ☑ 手話のコミュニケーション能力を自然に高められる言語活動
 - ー理解から表出へ向かう無理のないステップ
 - ー意味のあるやりとりの中で学ぶ言語の形成・意味・機能
- ☑ ろう者の生活や文化にふれることのできるテーマや教材

アドバンスコース

- ☑ 「意味の理論」に基づく通訳
- ☑ 翻訳→逐次通訳→同時通訳の無理のないステップ
- ☑ ろう者の表現や訳出をモデルにして学ぶ日本手話と日本語の違い
- ☑ 通訳情報処理過程に着目した通訳トレーニングの導入
- ☑ 語彙数のさらなる増加
- ☑ 流暢性を高めるための言語活動

第二言語習得理論・外国語教授法・通訳理論の知見やノウハウを取り入れた本格的な指導

「ろう者から学ぶ」を中心に据えた指導・教材

少人数でのきめ細かい指導

反転学習 (毎回の宿題) による理解・習得の下地づくり

授業時間外に取り組める語彙、文法、通訳学習等の豊富なオンライン教材

宿題の問題文動画と解答用紙



オンライン授業の様子

受講生の声

M.M さん（ベーシックコース）

偶然、群馬大学の手話教育の理念を知り「私がしているのは単なる単語の羅列だ」と気づき、基礎から学びたくて受講を決めました。講師はすべてろう者の先生で、ほぼ手話と最低限のチャットのための形態がかえって集中力を高めます。毎週の課題が次の講義内容に組み込まれ、文脈の中で理解できるように工夫されており、間違えやすいポイント等を次の講義でフィードバックして下さるのも非常に分かりやすい。先生方がこちらの未熟さに過大の配慮をされない点も素晴らしく、こちらの学びが広がる。とにかく、随所での工夫を感じます。オンラインのため講義動画を自分のペースで予習・復習に活用できるのも大きな魅力。毎週の学びで、日本手話は確かに日本語とは別体系の一つの言語なのだという実感が深まっています。

S.N さん（ベーシックコース）

週に2回の授業の実時間の他にも、単語課題、各レッスンの準備（プリント準備や資料読み込み、動画視聴など）で盛りだくさん。兎にも角にも手話を見続けることで先生方の手話が何となくわかるようになり、全員ミュート（稀に音声通訳あり）のレッスンにも慣れ、今では無音と文字のレッスンが心地よく感じられるほど。2回目か3回目の授業で「日本語のリズムにひきずられないように」と指摘された時には、「これぞ手話講座!!」と興奮してしまった。そういうことを教えてほしかったのです！1人で12人くらいの受講生をみて、表出や読み取りのポイントを手話と日本語とで（殆ど時差ナシで）わかりやすく説明して下さる先生方は、本当にスキルが高く、素晴らしいと思います。

M.N さん（アドバンスコース）

手話のスキルアップと、資格取得に向けた学習のために受講しました。社会人の手話学習者にとって、日本手話について体系的に指導を受けられる機会は貴重だと思います。専門家であるろう者の講師から、丁寧でわかりやすい講義を受けられるのが魅力で、毎回楽しく学習しています。

過去に受けた対面の講座等では、手話の読み取りに必死で、内容の理解が不十分になってしまうことがありました。本プログラムでは、オンラインでスムーズにやり取りできる便利さはもちろん、事前課題・授業・振り返り、オンデマンド教材といった学習の機会が充実していて、高度な内容も見直して理解できるという点でもメリットがあります。仕事や家庭と両立しながら、スキルアップしたい人にとってもお勧めです！

群馬大学共同教育学部入学試験係 （履修証明プログラム担当）

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4丁目2番地（荒牧キャンパス）

T E L : 027-220-7221, 7396

F A X : 027-220-7240

メー ル : recurrent@ml.gunma-u.ac.jp

受付時間：平日（月～金）9：00～17：00（土・日・祝日を除く）

手話サポーター養成プロジェクト室からの
情報はこちらからご覧下さい。



Instagram



YouTube



X (Twitter)